

Journal of  
Japanese Society of  
Oral Implantology

# 日本口腔インプラント学会

## 第45回 関東・甲信越支部学術大会 プログラム・抄録集

会 期：2026（令和8）年2月14日（土）～2月15日（日）

会 場：TAKANAWA GATEWAY Convention Center

主 管：一般社団法人 東京形成歯科研究会

大 会 長：月岡 庸之（一般社団法人 東京形成歯科研究会 施設長）

実行委員長：磯邊 和重（一般社団法人 東京形成歯科研究会 会長）

公益社団法人 日本口腔インプラント学会



Japanese Society  
of Oral Implantology

座長



**奥寺 元**  
Hajime Okudera

一般社団法人東京形成歯科研究会 理事長

Tokyo Plastic Dental Society

【略歴】

- 1973年 神奈川歯科大学口腔衛生予防歯科室入局
- 1975年 同 講師  
城西歯科大学口腔衛生学 講師
- 1980年 日本口腔衛生学会 理事
- 2007年 口腔インプラント学会特別論文功労賞
- 2025年 東京都スポーツ功労賞

王子歯科クリニック 開業昭和50年9月 現在  
総医院長

元東京医科歯科大学臨床助教授

元神奈川歯科大学客員教授

台北医学大学客員教授

(公社)日本口腔インプラント学会元理事

指定研修施設東京形成歯科研究会理事



**片山 幸太郎**  
Kotaro Katayama

公益財団法人日本ヘルスケア協会ウェルネス歯科部会  
部会長

JAH Division of Wellness Dentistry

【略歴】

- 1981年 日本大学大学院歯学研究科博士課程を修了し陸上自衛隊入隊
- 2008年 陸上自衛隊 陸将補(～2012)
- 2010年～現在 明海大学歯学部 客員教授
- 2012年 厚生労働省 指導医療官(～2017)
- 2017年 社会保険診療報酬支払基金審査委員(～2021)
- 2018年～現在 医療法人社団新仁会 理事長

(公社)日本口腔インプラント学会(会員番号166)  
終身指導医

(一社)日本スポーツ歯科医学会 理事・専門医・指導医

(一社)日本防衛衛生学会 常務理事

(公財)健康体力づくり事業財団 健康運動指導士

公益社団法人日本口腔インプラント学会では市民の皆さま向けに「健康寿命延伸を考えたヘルスケアとは？」をテーマにて市民公開講座を開催します。人生100年時代を迎え、日々の生活の質を保つためには、「食べる・動く・笑う」という基本的な営みを健やかに維持することがますます重要になっています。本公開講座では口腔の健康が全身へ及ぼす影響や栄養摂取、運動習慣づくり、心の健康など専門家が最新のデータを交えてわかりやすく解説します。今日から実践できる健康づくりのヒントも紹介しますので健康づくりに関心のある方はどなたでもお気軽にご参加ください。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

## 健康で長く生きるためにはどうすればいいの？ (食べて、話せば幸せはやってくる：口の健康とからだの健康)



**栗田 浩**  
Hiroshi Kurita

信州大学医学部歯科口腔外科学教室

【略歴】

1987年3月 新潟大学歯学部歯学科卒業  
1987年6月 信州大学医学部附属病院 医員  
1995年4月 信州大学医学部附属病院 助手  
1996年11月 医学博士・博士(医学)[信州大学]  
1997年4月 信州大学医学部附属病院 講師  
1997年10月 文部省在外研究員 スウェーデン カロリンスカ大学歯学部  
2001年6月 信州大学医学部 准教授  
2011年7月 信州大学医学部 教授 現在に至る  
2021～2023年 信州大学医学部附属病院 副病院長  
2023年4月 信州大学大学院 総合医理工学研究科 生命医工学専攻 専攻長

日本口腔外科学会・指導医、日本口腔科学会・指導医、日本口腔腫瘍学会・口腔腫瘍専門医、日本頭頸部癌学会、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医(歯科口腔外科)、日本癌治療学会、日本顎顔面インプラント学会・指導医、日本口腔インプラント学会・指導医、日本顎関節学会・指導医、日本有病者歯科医療学会・指導医、日本口腔ケア学会、International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, International Association for Dental Research など

「メタボ」、「フレイル」、「ロコモ」。巷には多くの健康キーワードが飛び交っています。皆さん、その言葉の持つ意味をご存じですか？

「健康に長く生きたい」。誰もが抱く願いです。では、健康で長く生きるためにはどうすれば良いのでしょうか？ 長寿に与える要因は、25%は遺伝的要因であるものの、75%は自分で管理可能な因子であると言われています。その管理可能な因子とはどのようなもののでしょうか？ その因子には、栄養、炎症、運動、精神活動、社会性などがあり、これらが私たちの健康長寿に影響を及ぼしていると考えられています。食べて、笑って、話して、動く。これらが私たちの健康に大きな影響を与えています。「食べる」、「話す」、「笑う」。これはどこで行っていますか？ そうです。口(くち)がその機能を担っているのです。口の健康や機能を維持・高めると、健康で長く生きることにつながっていきます。美味しく食べて、みんなとおしゃべりできれば、健康な毎日を送ることができるのです。皆さんご存じでしたよね。この当たり前すぎるのが私たちの健康長寿で最も大事なことなのです。今回のお話では、この当たりの事について、ちょっと学問的に、口の健康とからだの健康との関連について考えて見たいと思います。

## 歯科インプラントが健康長寿に役立つのは何故？ — 噛む力と口内の細菌が健康の鍵！ 生活習慣病・血糖値・ 筋肉量・腸活・がんととの深い繋がり —



**武内 博朗** 日本大学歯学部  
Hiroaki Takeuchi

【略歴】

- 医療法人社団 武内歯科医院理事長 ●日本大学歯学部臨床教授
- 1987年日本大学歯学部卒業(学35) ●1991年横浜市立大学医学研究科大学院博士課程修了(細菌学・分子生物学専攻) 医学博士
- 横浜市大医学部附属病院口腔外科勤務 ●1993年ドイツ連邦共和国マックス-プランク研究所免疫遺伝研究部職員 ●1995年ハイデルベルク大学医学部分子腫瘍研究部(ドイツ政府研究職員 BATTIIa) ●1996年国立予防衛生研究所口腔科学部 う蝕室研究員 ●1999年武内歯科医院勤務 ●2008年より日本口腔衛生学会認定医 ●横浜市立大学医学部非常勤講師 ●日本大学歯学部非常勤講師 ●日本抗加齢医学会専門医 ●国立感染症研究所元客員研究員
- 日本アンチエイジング歯科学会常任理事

近年、「お口の健康」が、実は全身の健康と深くつながっていることがわかってきました。

お口の中にある“善玉菌・悪玉菌”のバランス、お口の清潔さ、そして“噛む力”の状態が、生活習慣病をはじめ、血糖値・筋肉量・腸内環境・認知症、さらには壮年期の体型や思わぬ発がんリスクに至るまで影響することが次々と明らかになっています。

今回の市民フォーラムでは、皆さんが抱く「なぜ？」を大切にしながら、

- ・「噛む力が弱くなると、どうして血糖値が上がるの？」
- ・「なぜ筋肉量まで減ってしまうの？」
- ・「口の中の細菌と、大腸がんやアルツハイマー型認知症が本当に関係しているの？」

といった素朴な疑問に、医療・研究の最前線から分かりやすくお話ししていきます。

また歯科インプラントについても、人工関節と同じように「人工の歯根」により咀嚼機能をしっかり回復できる点を取り上げます。

奥歯で噛みにくくなると、ご飯・うどん・パンなど“柔らかい主食”が増え、逆に肉や緑黄色野菜など“噛む力が必要な食品”が減りがちです。

すると——

- ・糖質が多く入り続けて血糖値が上昇
- ・タンパク質不足で筋肉量が減少
- ・ビタミン・ミネラル・抗酸化物質が不足が起こることがわかっています。

さらに、歯を失わせる原因となる歯周病は「血管や多臓器への感染源」にもなり得ます。

こうした状態が数年続けば、糖尿病・脂質異常症・循環器疾患・骨密度低下など、さまざまな生活習慣病が顔を出しはじめます。

発症した病気にその都度対処していくのは、まさに“モグラ叩き”。

だからこそ、お口の健康を保つことで「罹らなくて済むはずの病気を寄せつけない」ことがとても大切です。

このフォーラムでは、攻めの予防医療”を、「なぜそうなるのか？」という根拠とともに、わかりやすくお伝えします。

ぜひこの機会に、お口から始める健康づくりを一緒に考えてみませんか？

## 健康寿命延伸のための運動・口腔ケア・メンタルヘルス —呼吸法も含めたトレーニングの実践!



**一場 友実**

Tomomi Ichiba

杏林大学保健学部リハビリテーション学科理学療法専攻

**【略歴】**

2000年 医療法人社団 平成記念会 国際医療福祉病院 リハビリテーション科  
2002年 国立病院 東京災害医療センター リハビリテーション科  
2013年 杏林大学 保健学部 理学療法学科 講師  
2018年 杏林大学 保健学部 理学療法学科 准教授

専門理学療法士(呼吸・心血管・糖尿病)、認定理学療法士(運動器・学校教育・呼吸)、健康科学アドバイザー、呼吸ケア指導士、認定訪問療法士、日本DMAT隊員資格、中級障がい者スポーツ指導員

日本スポーツ理学療法学会 評議員・ダイバーシティ推進委員会委員長  
日本理学療法士協会 スポーツ理学療法業務推進部会 部会員  
日本理学療法管理学会 評議委員・編集委員  
日本理学療法教育学会 選挙管理副委員長  
日本訪問リハビリテーション協会 JRAT 広報委員  
日本災害医療リハビリテーション支援協会 編集委員

健康寿命の延伸は皆様よく聞かれる言葉と思います。サルコペニアやフレイルを早期発見し、介護予防に繋げていくことが必要です。介護予防には運動・栄養・口腔ケアが重要とされています。運動には大きく有酸素運動とレジスタンス運動があり、運動は低強度の負荷からでも習慣化し継続することが最も重要です。また運動は不安症状やうつなどの治療・予防にも有効とされており、メンタルヘルスへの効果も多く報告されています。さらに運動は記憶や認知機能の維持においても有用です。

口腔ケアとして、直近5年間の我が国の死亡原因の5位・6位は肺炎と誤嚥性肺炎が占めています。誤嚥性肺炎の主因は嚥下障害とされており、65歳以上の高齢者の40%に嚥下障害を認めるとの報告もあります。誤嚥性肺炎の予防には口腔ケアが効果的とされており、定期的な歯科受診、歯磨き、口腔・呼吸機能のトレーニングが有用とされています。口腔機能も筋力同様に加齢と共に低下します。口腔機能と健康寿命の関連として、歯数が少ないまたオーラルフレイルがある方ほど健康寿命は短くなり、歯科受診や歯磨きを行っている方ほど健康寿命は長くなります。さらに身体活動量と歯の喪失にも関連が認められており、身体活動量の多い方ほど歯周病の頻度・重症度が低いとされています。運動・口腔ケア・メンタルヘルスは相互に関連し大きな影響を与えており、健康寿命延伸のためには全てに介入・対応を行っていく必要があります。

当日は健康寿命に影響を与えるサルコペニアやフレイル、嚥下障害があるかどうかのチェックを一緒に行います。また健康寿命延伸のための筋力トレーニングや口腔・呼吸機能のトレーニングを紹介いたしますので、実践してみましょう!